

第3学年 国語科学習指導案

◆単元名「想ぞうを広げて物語を書こう」

1 単元構想

単元で身に付けたい力

書く内容の中心を明確にし内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える力

言語活動とその特徴

本単元では、四枚の絵のうち三枚を見て、抜けている三番目の絵を想像しながら、それを基に「時」「場所」「人物」などの設定を考えて物語を作り、紙芝居にして下級生に読み聞かせる活動を設定している。設定を生かして、場面ごとの人物の行動や会話、気持ちへと想像を広げ、筋道の通った物語を書く力をつける。

児童の実態

本単元は、「書くこと」の「創作（物語）」の系統として位置付けられる。2年の同系統の単元では、絵を見て場面の様子や人物の行動を想像して書くことを学習している。また、9月の「サーカスのライオン」において中心人物の行動や様子・会話から人物の気持ちを想像する学習を行っている。  
 本学級の3年生は、R3標準学力調査の結果では、国語の正答率79.2%と全国(72.1)より高いが、「書くこと」については正答率50%、また、記述式の正答率も20%以下と課題が見られる。授業では、思いや考えがあってもなかなか発表することができない児童や言語に関して理解が難しい児童がおり、人数が少ないことも合わせて意見を広げたり深め合ったりすることが難しい。

指導観

第一次では、絵を見て想像を広げ、物語の設定を考えて物語を書き、紙芝居にして下級生に読み聞かせをするという学習の見通しを持たせる。あらかじめ決めた設定を生かして、場面ごとの人物の行動や会話、気持ちを想像しながら物語を書くことを知らせる。わくわくするような問いかけをしたい。  
 第二次では、絵を見て想像させ、「物語の設定メモ」やあらすじを書かせたうえで、それを基に物語を書かせる。③の場面でどのように解決したのかを設定を生かして想像豊かに書かせたい。書き始めにくい児童も友達の考えを聞くことで発想を引き出すようにする。  
 第三次では、書いた物語を読み合っ感想を伝え合い、物語を紙芝居にして下級生に読み聞かせをする。楽しんで物語を書く活動を展開し、想像したことを表現することへの意欲を高めていきたい。

2 単元の目標及び評価規準

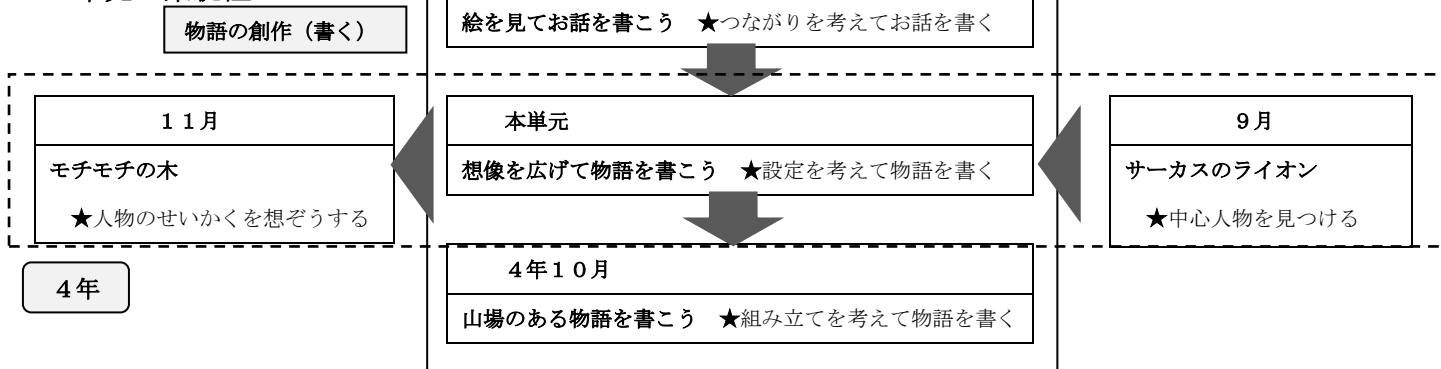
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。…(1)オ ②主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解する。…(1)カ	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。…B(1)ア ②「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。…B(1)イ	①言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 単元の評価規準 [下線部：重点指導事項]

知識・技能	思考、判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。…(1)オ ②主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。…(1)カ	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。…B(1)ア ②「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。…B(1)イ	①これまでに学習したことを生かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、物語を書こうとしている。

3 単元の系統性



【令和3年10月27日（水） 第6校時 大用小学校 3学年：5名 授業者 宮村 幸】

4 研究主題に関わって

研究主題：確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成

- 国語の見方・考え方を働かせる手立てを焦点化させる。  
・見方・考え方をどの場面で働かせたいのかを考え、意図的に設定する。
- 自分や友だちの考えを働かせる手立てをする。  
・詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動を設定する。
- 家庭学習(特に予習)を授業の中で生かす場面をつくる。  
・意図的に家庭学習を生かす場面をつくる。

5 学習の流れ〔全8時間〕

学習過程	主な学習内容及び学習活動	評価の計画及び評価規準、評価の方法	言語活動
第一次（つかむ）	① 単元のゴールを知り、学習の見通しを立てる。 ・絵を見て想像を広げ、物語の設定を考えて物語を作り、紙芝居に仕上げ低学年に読んであげるという学習課題を確かめる。 ・二年生の物語の創作で学習したことを振り返り、今回は、物語の設定から始めることを確認する。	【知識・技能】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。 ・ノート 紙芝居 ・主語と述語の関係、就職と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ・ノート 紙芝居	絵から想像を広げて「時」「場所」「人物」の設定を考えて紙芝居を作り、低学年に読み聞かせる。
第二次（取り組む）	②絵を見て、起こった出来事や物語の設定について考え、設定メモに書く。 ・①②④の絵を見て、起こった出来事や物語の設定について考えたことを話し合い、設定メモを書く。 ③③の場面を想像し、場面ごとのあらすじを書く。 ・三枚の絵から、③の場面で起こった出来事を考える。 ・「物語の設定メモ」に基づいて、絵を見ながらあらすじを書く。 ④あらすじを基に物語を書く。 ・「物語の設定メモ」とあらすじを生かして想像を広げ、人物や場面の様子が伝わるように、言葉や表現を工夫する。 ⑤自分の書いた物語を推敲し紙芝居に仕上げる。	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 ・設定メモ、ワークシート ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ・ノート ワークシート 紙芝居	
第三次（振り返る）	⑥友達と物語を読み合い、感想を伝え合う。 ・伝え合う観点を具体的にあらかじめ確認しておき、感想を伝え合う。 ⑦下級生に読み聞かせを行い、感想を聞くことでこれまでの学習を振り返る。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・これまでに学習したことを生かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、粘り強く、書く内容の中心を明確にして文章の構成を考え、物語を書こうとしている。 ・発言 行動観察	

単元終了時に目指す児童の姿  
○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えている。

4 本時の学習

第3学年

(本時 3/10)

(1) 目標

①②④の場面の情報を基に、③で起こった出来事を考えあらすじを書くことができる。

(2) 展開

学習活動及び学習内容	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (★)
1. 前時の学習を振り返る。		○「物語の設定メモ」の内容を振り返る。
2. 本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">めあて</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">③の場面を想どうし、あらすじを書こう。</div>		
3. 三枚の絵から③の場面の出来事を考える。 (どのような絵がくるか) ・③と②や④とのつながりから考える。	※③はどんな場面だと思いますか。 ・②で起こったことが解決される場面。 ・ねずみを助ける場面。 ※どうしてそう思いますか。 ・②の場面で困って④の場面で喜んでいる。	
4. 解決のアイデアを発表し合う。 ・人物の特性から考える。 ・行動・様子・会話を考える。	※どのように行動したのか想像してみましょう。 ・たぬきが川の中に入って、ねずみを受け止める。 ・川に落ちたねずみを引っ張り上げて助ける。 ・たぬきが化けてねずみを助ける。	○「物語の設定メモ」に基づいているか ・人物の「設定」と解決のアイデアの関係を教師が作ったあらすじで確認する。
5. あらすじを書く。		
6. ③のあらすじを発表する。	※設定とあらすじとの関係は、合っていますか。	○児童が想像した登場人物の行動は、児童が設定した「物語の設定」に関わっていることに気づかせる。  ○「物語の設定」があらすじにどう生かされているかにも注目し、評価する。
7. 本時の振り返り		★①②④の場面の情報をもとに③で起こった出来事を考えあらすじを書くことができたか。(思考・判断・表現)

(3) 準備物

メニューボード、場面の挿絵、設定メモ

(4) 板書

④挿絵

③

②挿絵

①挿絵

設定メモ

メニューボード

・たぬきが助かって、たぬきとねずみがよここびあっている。

・たぬきは、木のえだから落ちそうになっている  
ねずみを見つけ、おどろいている。

・たぬきがどんぐりを拾っている。

めあて  
③の場面を想どうし、あらすじを書こう。

想どうを広げて物語を書こう